



# ラリー・ウィリアムズの新インディケータ

## ～ WVF の紹介 ～

今、最も注目を集めているインディケータ VIX——恐怖指数  
VIX は S&P500 を対象とするオプション取引の値動きを元に算出・公表されているが、他の市場を対象にした同様の指数が存在していない。  
そんな問題をラリー・ウィリアムズが解決した！

「マーケットとは何か？」という問いに、あの有名な投機家であるバナード・バルクは「市場とは変動するもの」と答えている。

それを体現できる指標が、シカゴ・オプション取引所 (CBOE) に上場されている。1993 年に登場したボラティリティ・インデックス (VIX) である。VIX は、向こう 30 日間のボラティリティをトレーダーがどのように予測しているかを表している指数である。別名、恐怖指数とも言われており、まさに、投資家心理を反映した市場のリスクを測る指数と言えるだろう。

投資家の恐怖心を指数化しているのが VIX なので、VIX の上昇は、変動が激しくなっていくことを意味している。多くの場合、相場が底を打つときに、VIX は上昇している。また、VIX が下降しているときは、変動が少なく、市場が安定していることを意味している。これは、相場が天井を打つときによく見られる。

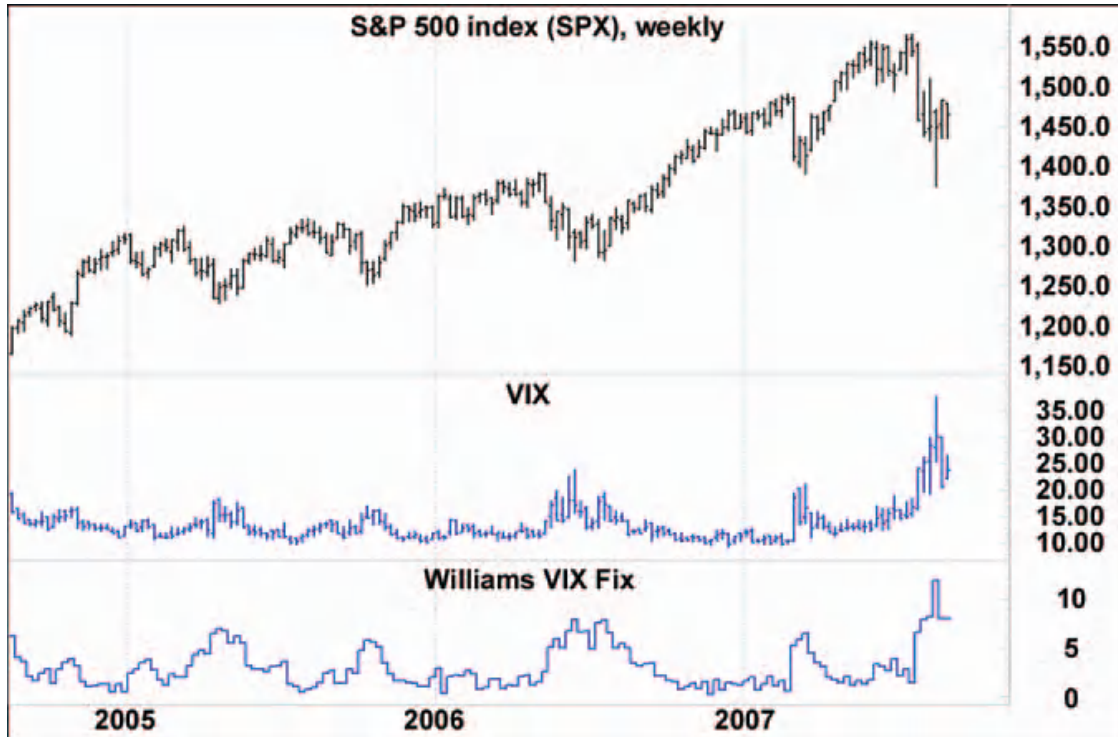
このように、VIX は投資家心理を突いたかなり有意義な指数なのだが、残念ながら、S&P500 を対象にしているだけで、他のマーケットを対象にしていない。

ここで、米国債、金、銀、大豆や個別銘柄の変動率を VIX のように表現するインデックスを紹介する。



## ■VIXとWVFの相関

### ■図1 類似のVIX——WVFはVIXと同じような動きをしている！



上段 S&P500 の週足

中段 VIX

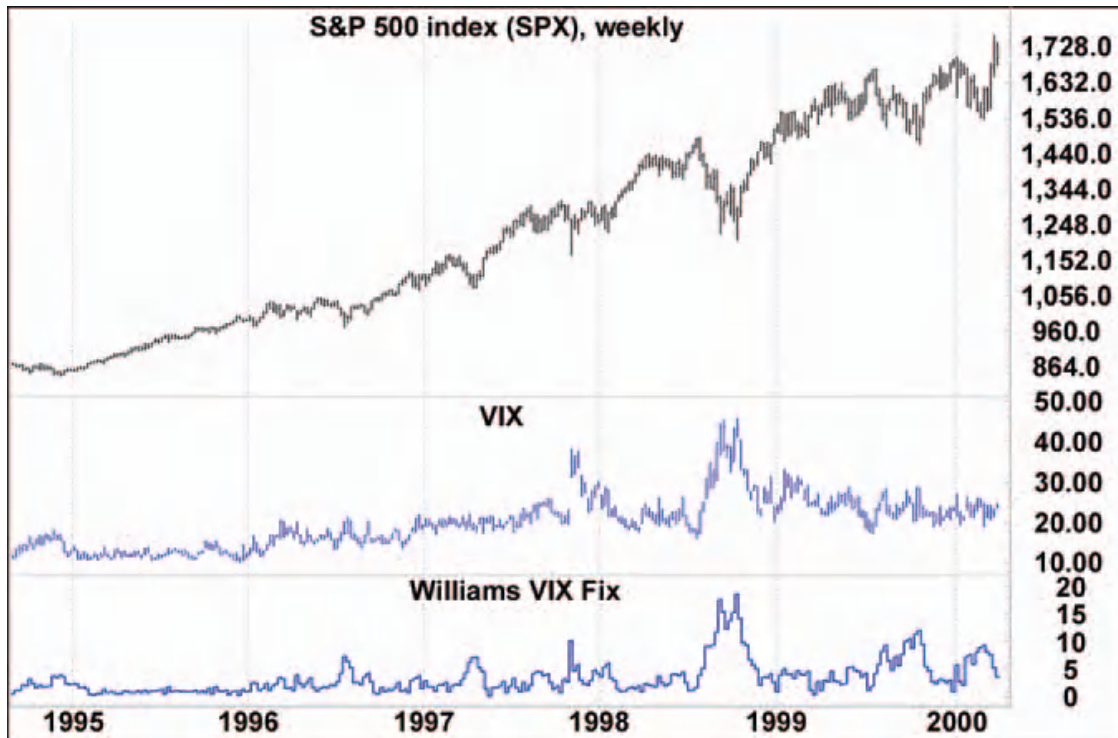
下段 WVF

図1は、S&P500の週足チャート（上段）、中段にVIX、そして下段には私が開発したウィリアムズVIX Fix（WVF）を載せてある。WVFは、スイングの波形、タイミング、振幅の度合いとも、VIXとそっくりだ。

（注）チャートの出典はすべてTradeNavigator.comより。以下同じ。



■図2 1995年から2000年までのS&P500の週足——VIXのような複雑な計算なしで算出できるWVF



上段 S&P500の週足  
中段 VIX  
下段 WVF

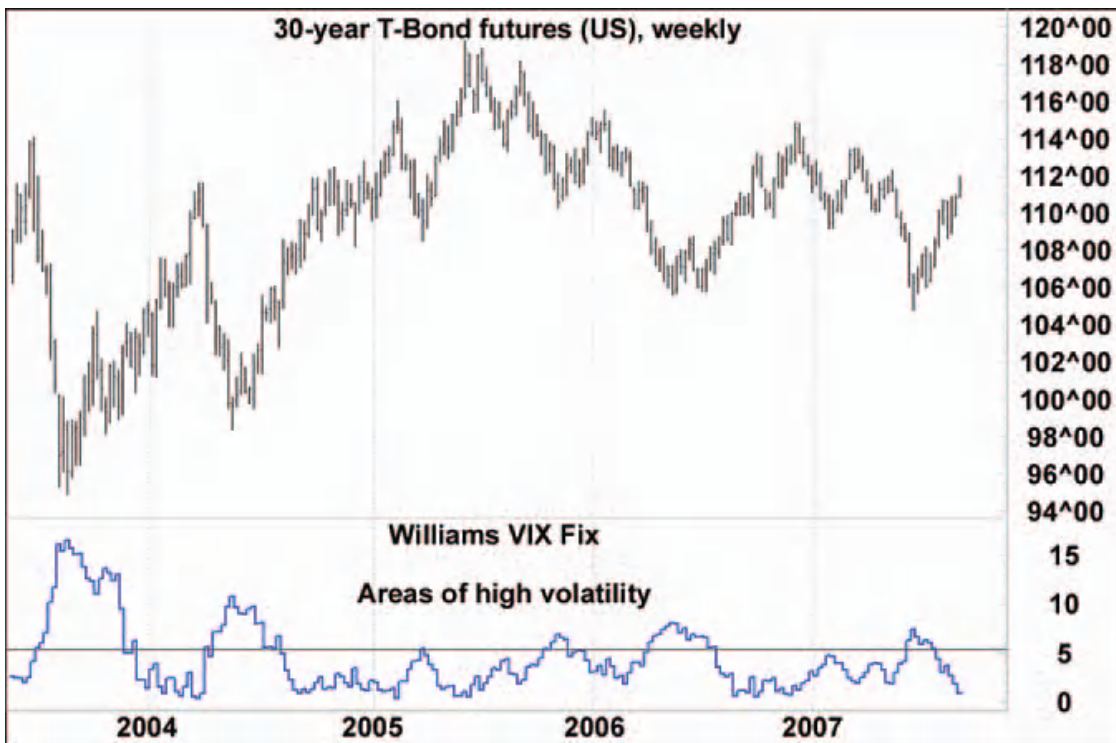
図2に示すとおり、1995年から2000年までの間、WVFの動きはVIXの動きとまったく同じと言っても過言ではない。オプションのような複雑な算出方法ではなく、非常にシンプルな計算式をWVFでは用いている。

この類似のVIXは、実際のVIXと同じような動きをしている。これで、変動率とマーケットのトップとボトムをS&P500以外の金融商品でも確認することができる。しかも、WVFはオプションのように複雑で時間のかかる計算は不要である。



## ■先物相場における WVF

### ■図3 Tボンドの週足とWVF——変動率が高まって横線を上に抜けてくると、相場は底を打つ傾向が強い



上段 Tボンドの週足

下段 WVF（横線は高いボラティリティの領域）

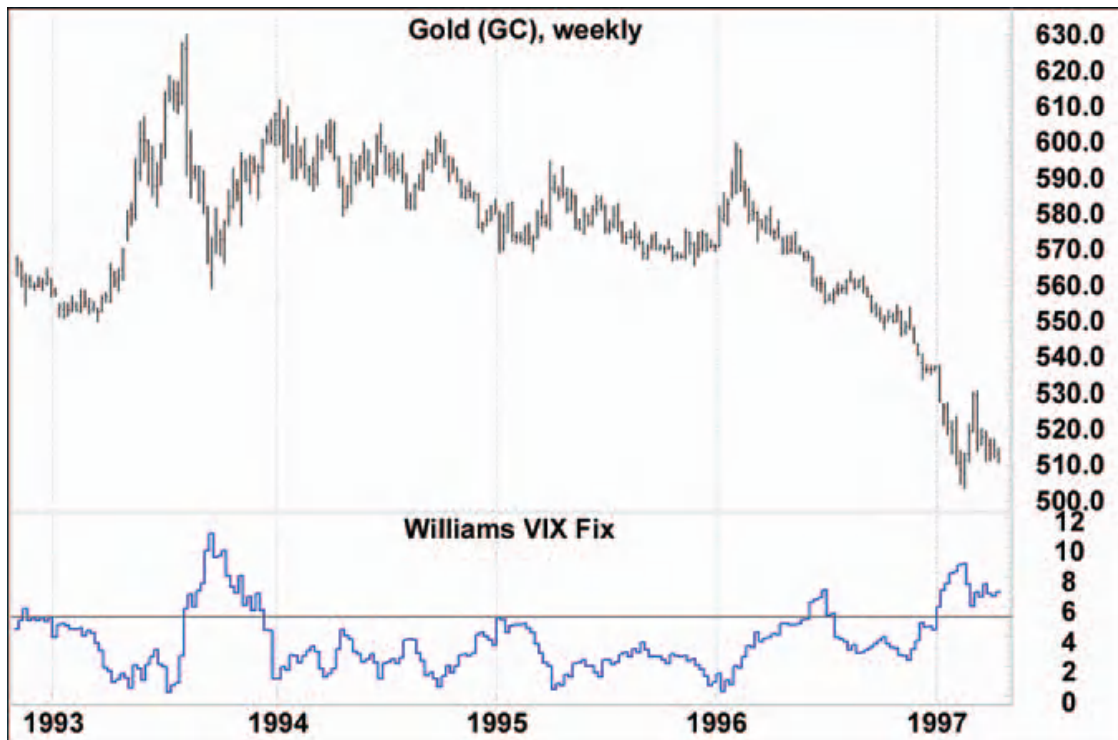
図3は、30年物米国債（Tボンド）先物市場とそのWVFを2003年まで遡ってチャートに記したものである。WVFはボラティリティの周期性を示している。

また、図1と図2でS&P500のVIXと比較してWVFが同じような動きをしていることは確認済みだが、マーケットのピークは、インデックスの数値が低く、かつ、安定しているときに形成される傾向が強い。WVFの数値が高いときは、相場は底を打つことが多い。

株価指数に限らず、米国債のWVFが急騰していると、Tボンドが底を打つ可能性が極めて高い。また、このようなとき、1日の値幅は大きくなる。それは、短期トレンドや1つのスイングの終焉を迎えることを意味している。



■図4 金の週足とWVF



上段 金の週足

下段 WVF

図4は、金（ゴールド）とそのWVFを記している。図3と同様に、スイングとボラティリティのサイクルが一致している。

このチャートから、WVFが高くなると相場の底入れが近いことが分かる。また、WVFが低い位置にあると、マーケットは上昇トレンドを形成している途中か、もしくは相場の天井が間近に迫っていることを示している。このボラティリティの周期は、株価指数や国債市場に限らず、どんな金融商品市場でも同じサイクルが存在している。

VIXとWVFのいずれも、ボラティリティと価格の周期性を表しているが、数値が高いときに投資家が不安に陥り、恐怖心にとらわれていることを的確に表現している。そのため、数値が低い位置にあるときよりも、高い位置にあるときのほうがマーケットを予測するのに役立つ。

一般的に、投資家は相場が上昇中は安心しているが、一度、マーケットが崩れると不安になり、最後はそれが恐怖心へと変化していく。恐怖指数といわれるVIXだが、実は底値拾いをする投資家の心の支えになっている。





■図5 2004～2007年までの金の週足とWVF——変動率が高まって、横線を上に抜けてくると、相場は底を打つ傾向が高い



上段 金の週足

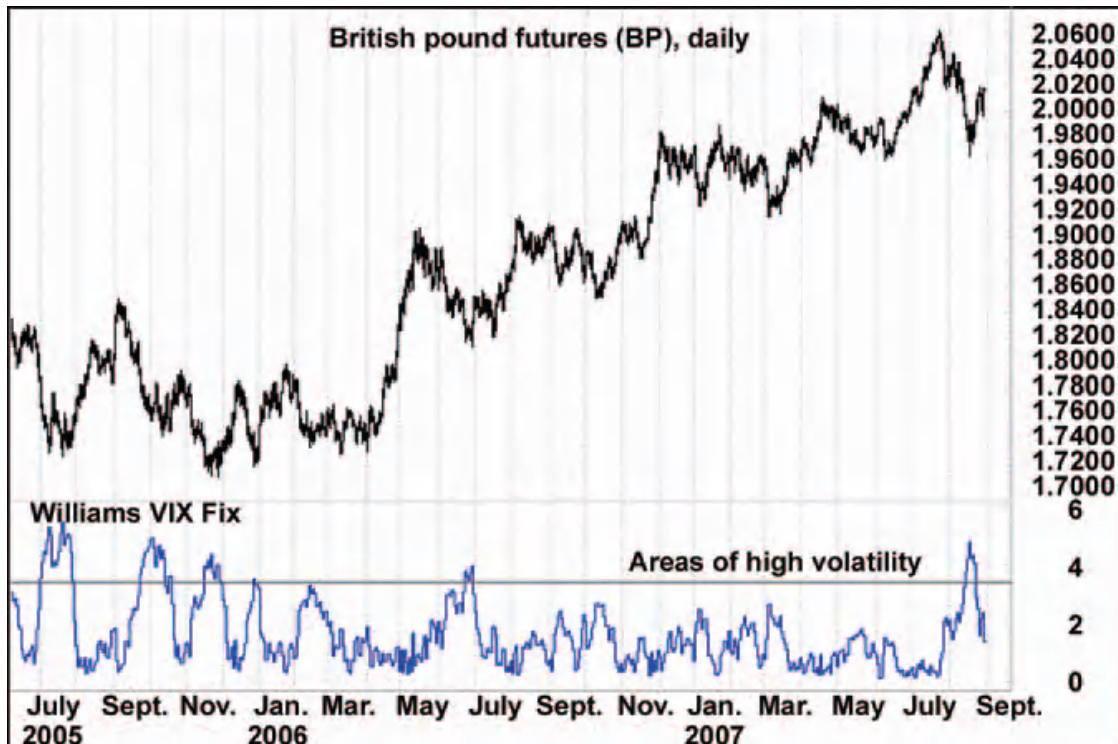
下段 WVF (横線は高いボラティリティの領域)

図5は、ここ5年の金価格とWVFを記しているが、価格とボラティリティの関係はそれまでのものと何ら変わっていない。ボラティリティが上昇してくると、マーケットは底を形成する。

このチャートで注目すべき点は、金価格が2006年5月に急上昇したとき、WVFに大きな変化はなく、その後、2006年6月と9月に金価格が底を付けたときに、WVFが急騰していた点である。これは、金相場特有の状況ではなく、S&P500のVIXでも同じ傾向がみられており、ボラティリティの上昇、マーケットの底を表現している。



■図6 英ポンドの日足とWVF——変動率が高まって、横線を上に抜けてくると、相場は底を打つ傾向が高い



上段 英ポンドの日足

下段 WVF (横線は高いボラティリティの領域)

図6は、英ポンドの日足チャートとWVFである。ここでも、ボラティリティが上昇してくると、英ポンドが底を付けている。また同時に、値幅が拡大している。ほかの商品と同じ傾向が通貨先物にも表れている。

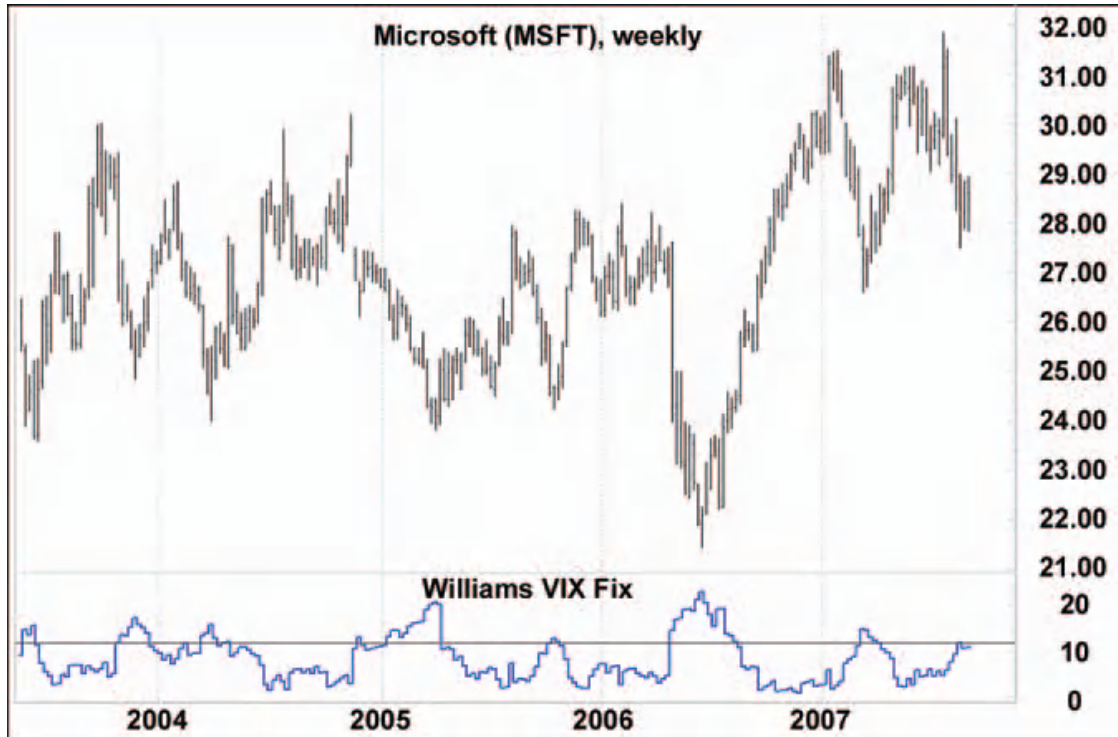
しかし、まだ、2つの疑問が残っている。

- ① このWVFは個別銘柄でも機能するのか？
- ② マーケットの天井と底を確認する以外に、他の使用方法はないのか？——である。



## ■個別銘柄における WVF

■図7 マイクロソフトの週足と WVF



上段 マイクロソフトの週足

下段 WVF

図7、図8、図9はアメリカを代表する銘柄である。個別銘柄でも、このWVFがマーケットの底を正確にとらえている。ボラティリティが上昇したとき、マーケットの底が形成されている。また、ボラティリティが低下しているときは、株価が上昇して天井を形成している。

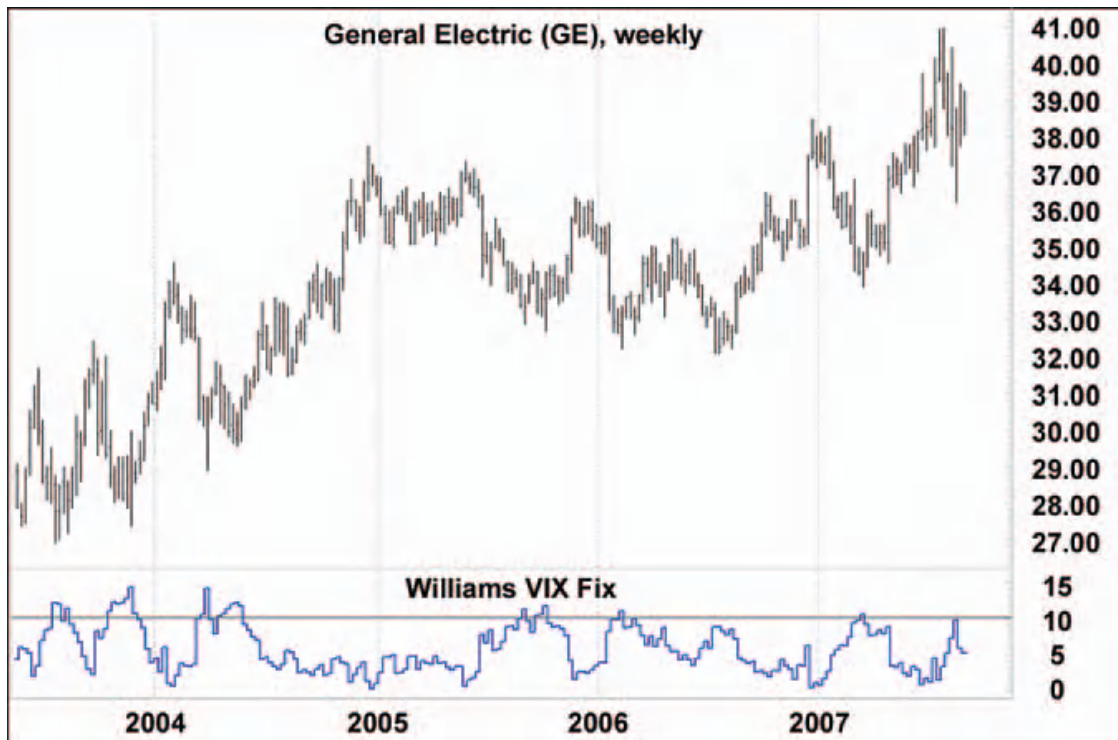
このWVFには、いろいろな活用方法がある。例えば、VIXそのものをベースに株を売買するトレーディング・システムを構築することもできる。ボラティリティが上昇するとき、トレーディングレンジが拡大して、その後に収束する傾向を利用して、割高になった銘柄を売る戦略にこのインデックスが使える。もちろん、ボラティリティが上昇したあとは、転換点が間近に迫って底を付けることも忘れてはいけない。

図7は、全世界が注目しているマイクロソフトの株価とWVFである。やはり、この株もボラティリティが上昇したときに、底を打っている。





■図8 ジェネラル・エレクトリック（GE）の週足とWVF

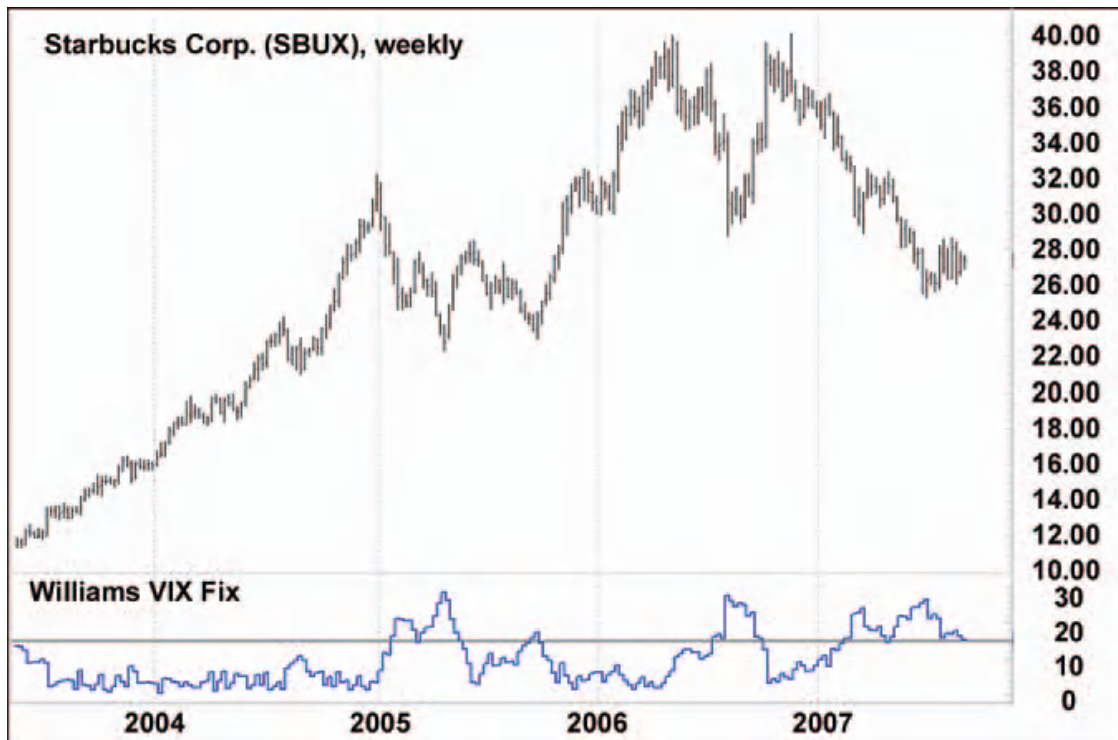


上段 ジェネラル・エレクトリックの週足

下段 WVF



■図9 スターバックス (SBUX) の週足と WVF



上段 スターバックスの週足

下段 WVF

図8はジェネラル・エレクトリック (GE) の株価と WVF、図9はスターバックスの株価と WVFである。マーケットに存在する自然のサイクルが、これらの銘柄にも表れている。

もちろん、このインデックスが完璧なものとは思っていないが、市場の状況を把握するうえで重要な指数であると言える。どの企業の株価であっても、ボラティリティと価格のサイクルは存在している。つまり、銘柄が何であろうと全く関係ない。



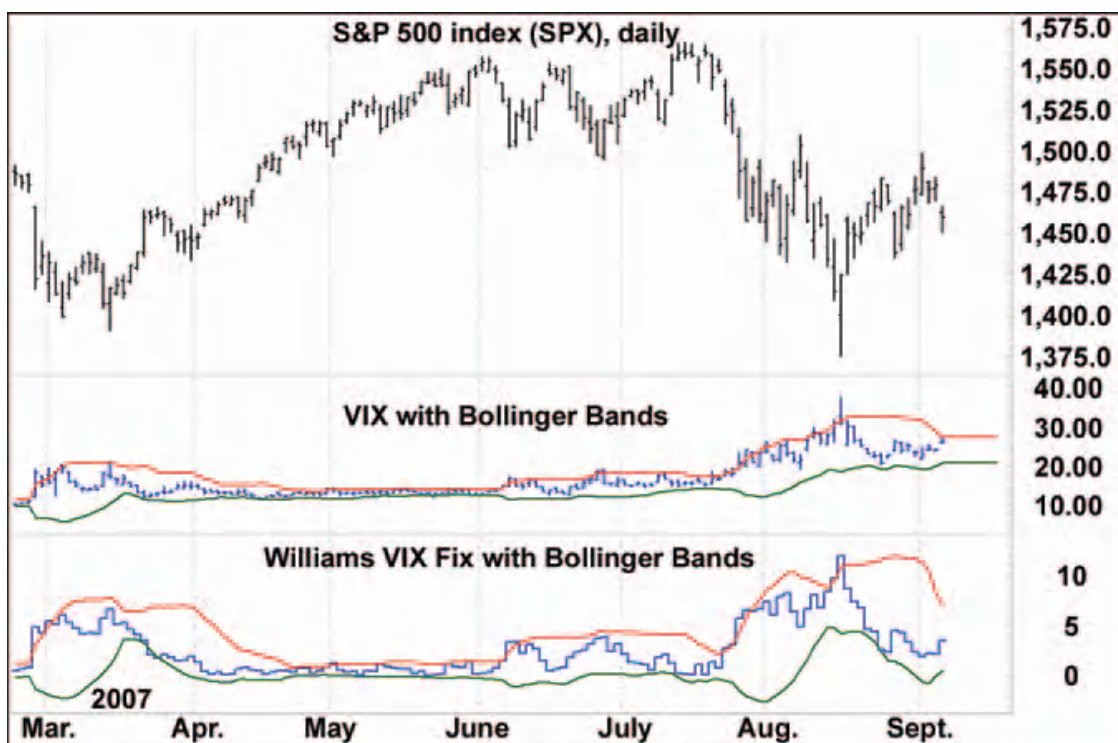
## ■WVF の活用方法

すでに、WVF の活用法でいくつかのアイデアが湧いてきていると思うが、ここで私なりの活用法を紹介したい。

ボラティリティは、上下に振幅を繰り返して、その天井と底がはっきりしないことがある。そこで、VIX と WVF のボリンジャーバンドを作成してみる。これによって、ボラティリティの変化に、瞬時に対応できる。バンド幅の変化はボラティリティによって引き起こされているため、その値を一定に保つ必要はない。

図 10 の VIX と WVF は、同時にバンドにヒットしている。これは、この 2 つのインデックスがほぼ同じ動きをしていることを証明している。まったく同一ということではないが、WVF が VIX の代替になり得ることを示している。

■図 10 S&P500 の日足——VIX と WVF のボリンジャーバンド



上段 S&P500 の日足

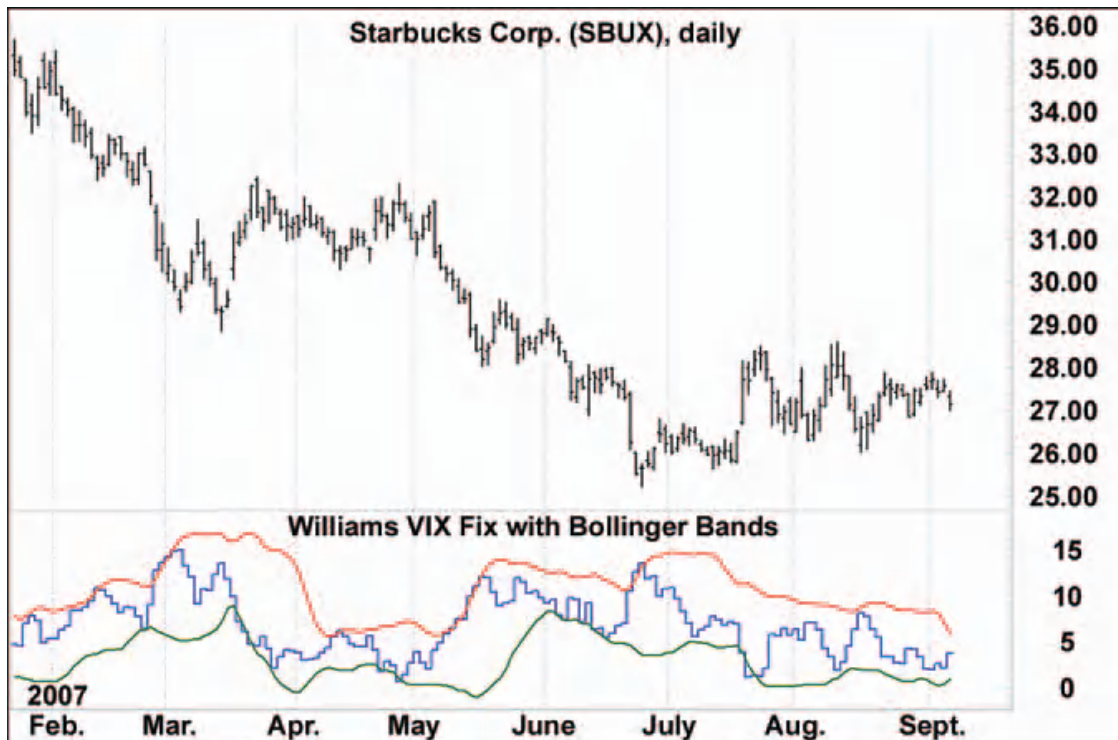
中段 VIX とそのボリンジャーバンド

下段 WVF のそのボリンジャーバンド

本資料は、提供されましたお客様限りでご利用下さい。本資料のいかなる部分も West Village Investment Co., Ltd. に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。



■図 11 スターバックスの日足と WVF とそのボリンジャーバンド



上段 スターバックスの日足

下段 WVF とそのボリンジャーバンド

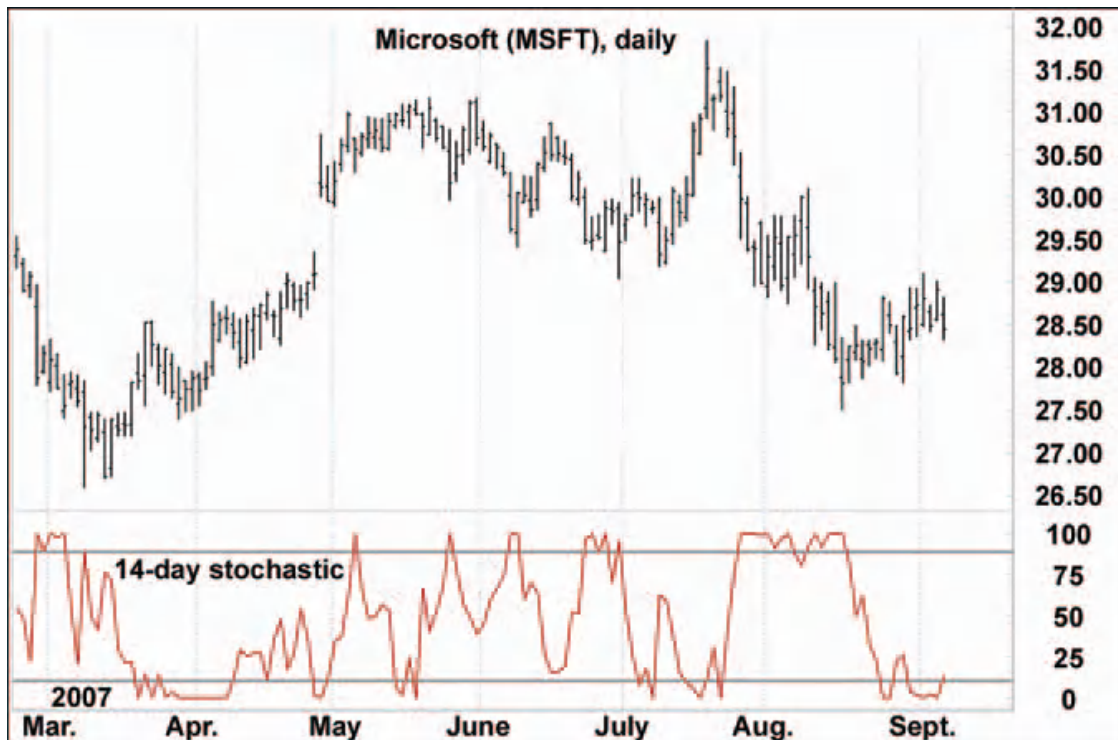
株価指数で機能しているこのインデックスは、個別銘柄でも活用できる。これを念頭に、図 11 で、スターバックスの VIX と WVF をチェックしてみる。図 10 で確認した VIX と WVF の動きが同一だったように、図 11 の WVF もスターバックスの動きを的確につかんでいる。

ボリンジャーバンドのほかに 14 日間の WVF ストキャスティックスを用いる方法もある。もちろん、WVF は日足だけではなく、週足でも活用できる。

WVF ストキャスティックスが 80% を超えてくるとマーケットが底を打っている。また、20% よりも下げてくると相場は天井を打っている。



■図 12 マイクロソフトの日足とWVFの14日間ストキャスティクス



上段 マイクロソフトの日足

下段 WVFの14日間ストキャスティクス

WVF自体はトレーディング・システムではない。あくまで、指数であって、ボラティリティと価格のサイクルを見分けるツールの役割しか果たしていない。しかし、サイクル分析から、マーケットが次にどの方向へ向かうのかを予想することは可能であり、それを容易にしているのがWVFであると考えられる。

ラリー・ウィリアムズ  
**Larry Williams**